

各 位

2025年2月17日  
株式会社リットーミュージック

小室哲哉が「Get Wild」「DEPARTURES」「WOW WAR TONIGHT」など  
自身のヒット曲を語った書籍『小室哲哉 作曲の思考』が発売



インプレスグループで音楽関連のメディア事業を手掛ける株式会社リットーミュージック（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：松本大輔）は、『小室哲哉 作曲の思考』を、2025年2月18日に発売します。

### 稀代のヒットメイカーが語る作曲、編曲、作詞、プロデュース

本書は作曲家／音楽プロデューサーとして、また昨年40周年を迎えたTM NETWORKのリーダーとして活躍を続ける小室哲哉氏が、自身が手掛けたヒット曲の制作過程を解説。1曲につき1～2時間に及ぶ取材を元に、作曲、編曲にとどまらず作詞、プロデュースに至るまで、多角的にそのクリエイションの源泉と思考の過程を明らかにします。

DEPARTURES 作詞/作曲/編曲：小室哲哉

伏せたよまの 目を覚めての一人
今もこの夜に
いつの日か 別れの夜に 始
めず 思ひ くて
やさしさもわがままも 温もりも寂しさも
思いやりも全てを 全部あずけた

WILD AND A WOMAN
GET TO BE THE DO
AGAIN AGAIN
AVIN E DRE T AR L S BE ND
AFTER ALL THOSE LONG NIGHTS
TO DISCOVER A NEW ADVENTURE

いたことか、ね、思ひつたに
云々、あ、れ、る
夜がやけに、く、か、れ、な
思ひつたに、思ひつたに

永遠に、それはあなたへの思いがずっと
いつもある言に、思ひつたに、思ひつたに

TAKIN' TO THE ROAD WITH THE MEANIN' OF LIFE
ON THE MOUNTAIN
TAKIN' TO THE ROAD WITH THE MEANIN' OF LIFE
ON THE MOUNTAIN
TAKIN' TO THE ROAD WITH THE MEANIN' OF LIFE
ON THE MOUNTAIN

前髪が、同じ、同じ
目も、目も、目も
が、が、が
やさし、やさし、やさし

さ、でも、降り、降り、降り
少、少、少
る、る、る

各楽曲の歌詞とコード進行表も掲載しています。

具体的にはどのように組み合わせたのですか？

コードは最初から完全にド定番で行こうと思い、前半はほぼカノン進行。
サビはTK進行というか、Am-F-G-Cの「Get Wild」のサビと同じ進行。
凝る必要はないと思っていました。全部簡単に押さえられるコードの範囲
でやればいいと。

僕はいつも、「リアリティ」と必ず言うんですけど、この曲に関してはリ
フなんかは微塵もないです。決まっているリフのフレーズはないですね。
決まっていたのは、途中でフォーキーなセクションとハイパーなセクショ
ンをくっつけること。それにはジャングルがちょうど良かった。後半はリ
ズミ的に4つ打ちだとダサいと思ったんですよ。ここで4つ打ちを持ってき
たら、せっかくフォーキーな前半がフォーク志向の人に結構いいじゃんと思
われても、結局「それかよ」となってしまいうも嫌だった。4つ打ちにする
と、トランシーになっちゃう……BPMが速いので、ユーロビートみたいにな
っちゃうたかもしれないですね。だから4つ打ちにはしなかったんです。

ベースラインも、バツとは聴き取れないくらい沈んでいるというか、分
からない。典型的な例では「Get Wild」のベースラインは他のパートより
はっきり分かるんですけど、そうした手法も排除して、何かの音が目立つ
ことはしなかったんですよ。何の楽器の音も目立たないでしょ？ リ
ズムというかビート感が目立つのと、あとちょっとループの聴こえるくら
いで。

—イントロのピアノのリズム……(ウン)ジャン、(ウン)ジャン……はもちろ

B♭ F | Gm B♭ | E♭ B♭ | C Dsus4 D |

Aメロ前半のコード進行

B♭ F | Gm Dm | E♭ B♭ | E♭ F |

同キー(B♭メジャー)でのカノン進行

イントロですら目立っていますが、歌に入ったらずっと同じように繰り返して
いくので、やっぱり浜田さんの存在感が強いんですよね。

浜田さんはプロの歌手ではないので、そんなに歌い分けもできないとい
う前提で考え、ゆっくりなテンポなら少し静かに歌って、テンポが上がっ
てキーも上がればシャウトっぽくしてくれるだろうなと。この2種類なら
成立するんだらうなという。曲を2輪で考えているときに、浜田さんの歌
い分けも2個ならいいだろうなと思っていたら、うまくハマってくれて、
冒頭はキーがBメジャーで、間奏からの後半はDメジャーに転調している
んですね。半音で言えば4つ上ってテンポが速いセクションに行くんで
すけど、前半は静かにほんかわ歌ってもらうためにBメジャー。後半は声
を張ってもらうためにBから上げてDにした。必然的に声の音量も上がり
ますから。

—そうした設計図を作っていくのと同時に、ベーシックとなるトラックも作り
始めたのでしょうか？

そうですね、オケからです。こんなに歌詞がフィーチャーされてもやっ
ぱりオケからでした。前半と後半の2軸はありながらも、あと前の中でMV
のロケハンみたいなことをして、このセクションはあの場所、こっちはあ
の場所とマップを作っていたんです。そのマップは本当にMVを撮るとき
にもやる手法で、Aメロはこの飲み屋さんにしましょうみたいなことにな
れば、それに合った言葉を選ぼうと。背中越しのカウンターという映像が
思い浮かぶじゃないですか？ そんな映像的な視点で、カメラがどこにあ
るかという考え方で作っていました。

当時の「HEYHEYHEY!」には二人、名物の人がいて。一人はアジテ
レビのまきち伸さんという有名なプロデューサーで、もう一人はフリーの
城野智樹さんという、英語で言ったらフォトグラフィライターみたいな
……映画で言うところの映像監督をやっていた方。面白い人で、僕とはカ

また解説内容に合わせて随時対照用のコード進行も本文中に用意。

ジオミュージシャンがデモにも参加してくれることもあり、かなり豪華な状態でやっていたことも多かったですね。時間的に、移動する時間も取れなくて次から次に曲を作らなくていけなくなってきたので、そろそろそういう形でやらないと間に合わなくなってきた。たぶん「恋しさとせつなさと心強さと」(藤原道子/1994年)のちよっと後くらいですね。なので、「愛撫」は編曲も僕ですが、曲中に入ってくるサンプリングのネタも「恋しさと～」と同じものが多く出てくる。女性の声とか。

— 当時はサンプラーとして、現代のDAWに通ずるニュー・イングランド・デジタルのシンクラヴィアを使っていたのでしょうか？

シンクラヴィアは使い終わって、アカイのサンプラーですね。ヒップホップのビートメイカーもアカイのMPCを使っていたところで、僕もラック型サンプラーじゃなくてMPCを使っていたと思います。もしくは、アシスタントが著作権フリーの声とかを全部鍵盤に割り当てて……そういう作業をレコーディングスタジオとは別の部屋で、ひたすらやっていた。ドラムも、全鍵盤がキックとかスネアとか、あとブレイクビーツとかフィルとか、今のソフトシンセの音色カテゴリー分けみたいな感じのことを自分でやっていた。なので、“次はフィルを入れよう”となるとそんなに待ち時間がなくても鍵盤にフィルだけ並ぶ。キックもスネアも相性のいいものが用意されて、そんな曲の量産システムができていましたね。

シンセの実機は、あれもこれも使う感じじゃなかったです。ほぼいつも同じものを使って、1台で普通にやっていたくらいだと思います。

— 「愛撫」はイントロの最初だけ3拍子で、途中から4拍子になりますね。

もう手癖です(笑)。なんとなくで、本当に。今になってbillboard Classicsとかで演奏するときに、こんな難しいリズムだけ？ と(笑)。指揮者の人の元で演奏するとこんなに難しくなっちゃうのかな？ 思いましたけど



ニュー・イングランド・デジタルのシンクラヴィア、R4015で、ルーンバー、サンプラーのみならず、ハードディスクレコーディングやミキシングなどの機能を備えた。現在のDAW(デジタルオーディオワークステーション)の発展形。CD044.1M48と100kHzでサンプリングが可能な機種だった。



アカイMPC3000(1994年)。MPC2000とは、Line Dromeの発売後22年ぶりに2016年1987年に最初のMPC2000誕生。MPC3000ではCDレコーディング16ビット/44.1kHzでデジタルサンプリングを実現していた。

そのほか制作のポイントとなった機材も紹介しています。

なお、本書は初版限定で NFT デジタル特典も用意。本書に収録の 8 曲の中からランダムで 1 曲分のインタビュー音声（抜粋）を NFT デジタル特典として取得できます。

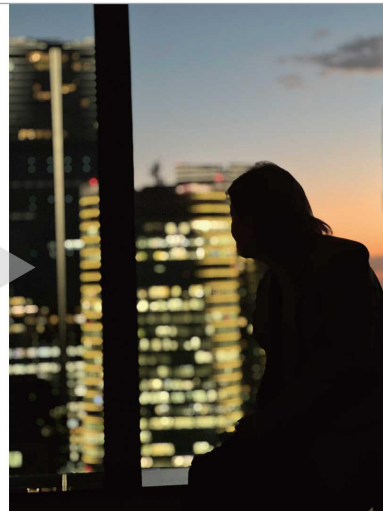
特典引換期限：2027 年 2 月 13 日（土）

※特典をお楽しみいただくためには FanTop の会員登録とアプリ（無料）が必要です。

## 小室哲哉 作曲の思考

— 稀代のヒットメイカーが語る作曲、編曲、作詞、プロデュース —

# Get Wild



NFT デジタル特典（イメージ）

NFT デジタル特典のダイジェストを YouTube で公開中

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLk8EuG9Vs02RzYxkPwzV1f2pmmPWapnSY>

### ■ 書誌情報

書名：小室哲哉 作曲の思考

著者：小室哲哉

定価：4,400 円（本体 4,000 円 + 税 10%）

発売：2025年2月18日

発行：リットーミュージック

商品情報ページ <https://www.rittor-music.co.jp/product/detail/3124364002/>

掲載楽曲（発表順）

TM NETWORK「Get Wild」

trf「EZ DO DANCE」

中森明菜「愛撫」

H Jungle with t「WOW WAR TONIGHT ～時には起こせよムーヴメント」

globe「DEPARTURES」

安室奈美恵「SWEET 19 BLUES」

TM NETWORK「Whatever Comes」

西川貴教 with t.komuro「FREEDOM」

## PROFILE

小室 哲哉（こむろ てつや）

1958年11月27日、東京都生まれ。音楽家。1983年、宇都宮隆、木根尚登と TM NETWORK を結成し、1984年に「金曜日のライオン」でデビュー。同ユニットのリーダーとして、早くからその音楽的才能を開花。以後、プロデューサーとしても幅広いアーティストを手がけ、これまで世に生み出した楽曲総数は1,600曲を超える。20曲以上がミリオンセラーを獲得する稀代のヒットメーカー。日本歴代シングル総売上が作詞／作曲／編曲のすべての分野でTOP5に入る、唯一の存在である。

【株式会社リットーミュージック】 <https://www.rittor-music.co.jp/>

『ギター・マガジン』『サウンド&レコーディング・マガジン』等の楽器演奏や音楽制作を行うプレイヤー&クリエイター向け専門雑誌、楽器教則本等の出版に加え、電子出版、映像・音源の配信等、音楽関連のメディア&コンテンツ事業を展開しています。新しく誕生した多目的スペース「御茶ノ水 RITTOR BASE」の運営のほか、国内最大級の楽器マーケットプレイス『デジマート』やTシャツのオンデマンド販売サイト『T-OD』等のWebサービスも人気です。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：松本大輔、証券コード：東証スタンダード市場 9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社リットーミュージック 広報担当

E-mail: [pr@rittor-music.co.jp](mailto:pr@rittor-music.co.jp)